



教育の充実について



北川 克則 議員
(令和新風加西)

問 教育3本の矢の加西BASEで、リーディングスキルトレーニングの現状と感想は。

答 (教育長) 全ての学校でトレーニングがスタートしています。メインは週2~3回10分程度の複写トレーニングです。教員の感想では、子供の集中力が高まってきたとか、授業が落ち着いてきたとか、小学校の子供では手遊びが減ったとか、素早く教科書を開けるといったように、授業の準備が丁寧に行えるようになって

ています。

問 教育3本の矢の加西STEAMで、体験を活かした非認知能力育成の取組は。

答 (教育長) 西本智実さんによる体験型の音楽指導は、令和7年度で3回目を迎えます。1日だけの指導ですが、子供たちは大きく変わっていきます。各学校では、地域の特性を生かした農業体験、福祉体験、公民館の事業所と連携した体験活動などを行い、それらを通して、教科の授業では身につけられない思いやりや協調性、物事をやり抜く力、自己肯定感など、色々な形の非認知能力の育成につながっていると考えます。

問 自由主義と利己主義の境目が混沌としている現在、人としての正しい生活の筋道であり、心の在り方を学ぶ道徳教育は、とても大切だと思います。そこで、道徳教育の現状をお聞かせください。

答 (教育長) 道徳教育については、学習指導要領で道徳の授業があります。それを中心に学校生活全体で行っています。主に特別活動や行事などのいろいろな場面で、各校が計画的に実施しています。

提案

定期的に姿勢を整える、元気に明るく声や動作を揃える(形から入る道徳)実践を勧めて欲しい。



進むDXと方向性の提案



下江 一将 議員
(清流会・かさいを育む会)

問 AIの進化によってDX化が加速する中、本市としても急激な変化に対応していく必要がある。「かさい『ミライナカ』くらしラボ」の設立経緯と具体的な取組を伺う。

答 市長を会長とし、30の会員企業・団体の参画により令和8年2月に設立されました。助け合うまち、移動にストレスのないまち、地域通貨で活気づくまちの三つを重点テーマに、官・民・市民が連携し、課題解決に取り組めます。

問 本市におけるDXの真の目的は、単なる行政事務のコスト削減や効率化なのか。それとも、市民の満足度創出や幸福度向上などを最上位の価値として位置づけているのか、根本的な考えは。

答 さまざまな分野で市民生活をより便利で豊かにすることを目的としています。産業・農業・観光の分野に新しい展開をもたらし、環境にも配慮した、人が中心の持続可能な共生のまちの実現を目指しています。

問 活動の回数などの数字を追うだけでなく、その結果として市民の行動や幸福度がどう変化したのかという成果(アウトカム)を検証することこそが、孤独を防ぎ、豊かな社会を築くために不可欠だと考える。現在、設定しているDX化の成果指標は何か。

答 当面は利用者数等を目標としています。将来的には顕在化していない課題への対応も必要であり、誰ひとり取り残さないデジタル化を進めたいと考えています。

問 孤立を防ぐ具体的な物差しとして、ねっぴ~Payでのポイント利用者間の交換による「地域で支え合う可視化」や、かさいライフナビを活用して家族以外に相談できる人がいるかなどを調査する「信頼接点指標」を導入し、その数値を目標に掲げることを提案する。

答 非常に重要な視点です。令和8年度予定のかさいライフナビとねっぴ~Payのアプリ間連携等の事業を成熟させていくとともに、提言いただいた内容についても検討を進めます。